

澤久次郎 十二、日本海員救済會横濱出張所長宇敷甲子郎 十三、郵船會社海員課浦田格助 十四、郵船會社海員課山中政三 十五、同上上ノ畑純一 十六、大島商船學校長 十七、下關幹部員一同 十八、萬田策郎 十九、全日本鑛夫聯合會 二十、横濱郵船川口

廿一、堀内長榮 廿二、須磨丸機關部 廿三、夕映丸甲板部 廿四、萬田松五郎 廿五、今井嘉幸 廿六、アフリカ丸機關部 廿七、木下長次 廿八、市川純一 廿九、松井鐵次 三十、森田卅一、麻生久卅二、鈴木六六二

發會式祝辭

一、内田嘉吉 二、市長櫻井鐵太郎 三、神戸社會課長木村義吉 四、市會議員中村廣吉 五、關西魁新聞社横山彦一 六、川村貞二郎 七、大阪商船會社社長堀啓次郎 八、東洋汽船社長淺野總一郎 九、救済會内田正敏 十、海員協會藤井治三郎 十一、國際汽船株式會社 十二、海員ホーム 十三、商船同志會 十四、橋本梅太郎 十五、加藤長平 十六、社團法人海員共同救済會 十七、海洋統一會松尾小三郎 十八、中山清太郎

以上祝電 祝詞を讀上げ

國として其長所を誇り得る處の大海運國であるならば其大海運國としての要素を具備せざる可らずと私は左様に信じて居るのであります然らば

大海運國の要素とは何か

英米各國に於ては立派なる大海運國としての要素を備へて居る然るに我日本には其要素が今日まで完備せられて居なかつたのであります、單なる海運國としても苟も一國の海運政策を行ふに當りては此の海運行政に關する必要機關がなければならぬ、此の政策に必要缺ぐべからざる處の評議機關がなかつたのであります最近に海事委員會など云ふ會が組織せられて居るが是れ以て一部少數の官僚と一部の船主の會合であつて此の重大なる一國の海運政策を料理するの資格はないのであることは私が茲に申上ぐる迄もなく既に諸君は御存じのことと左様に存じて居るのであります然らば何を以て

資格ありやと云ふに

即ち海員の意志を代表する海員組合なるものがなければ海運政策の運用進展を計ることは先づ不可能であ

理事 北野勇吉氏閉會の辭を述べ
組合長 檜崎猪太郎氏

天皇皇后兩陛下の萬歳を三唱す次て日本海員組合萬歳を三唱して茲に意義ある發會式を終了す。

所感

組合副長 龜井司

同日午後二時より演說會を開催し龜井司氏閉會の辭を述べ後ち所感の題下に

諸君、私は日本海員組合の一員として聊か私の所感を披瀝して發會式の挨拶に替へ度と思ふのであります歐洲開戦以來新聞に雜誌其他隨所に大海運國と云ふことを屢々耳に致すのであります、其度毎に私は一種異様の感に打たれざるを得ないのであります、之は要するに歐洲大戦後我日本は世界三大強國の内三列に列したると云ふ見地から、英米に次には日本である即ち三位であつて列國が果して左様に認めて居るかどうか甚だ疑問であるのであります、若しも日本は世界の大海運

と云はなければならぬのであります、海運政策に於ては常に世界の雄を以つて誇り特に異彩を放つ其範を世界に示めして居るところの英國の如きは實に此等の機關は完全に備へられて居る、政府の當路者が海運行政に關する研究乃至諮問をする場合は船主側と船員側の代表と何れも等数の意見を出して會合を催し慎重審議を遂げ各自に忌憚なく意見を述べ此の海事評議會に於て海運政策の大方針と海員労働問題とを協議するのであります、斯くして周到に至らざるなしと云ふ眞に國家の進展に貢獻することが出来るのである、從來其名は世界の三位に列する海運國であるなど自ら誇つて居つた次第であるが、實は海運國としての不具者であつたのであります、即ち片輪者であつたのであります、如斯不具者であつた爲め昨年伊國のゼノアに開催せられたる海員會議に於ても各國に嘲笑せらるゝが如き愚を演ずるの止むなきに至つたのであります、如斯從來は不具者であつた海運國なる我が日本は茲に理想的なる日本海員組合の内國的にも對外的にも日本の全海員を代表し得る處の海員組合の出現を得て今日茲に完全なる健康體となつたのであります、海員諸君の爲めに